

友人の誘いで、中国の浙江省にある紹興を訪れることになった。

紹興郊外にある会稽山は伝説の夏王朝ゆかりの地と言われ、古くから歴史に登場する場所である。また、春秋時代の越国の首都として輝かしい歴史を持ち、近年は観光地としても有名な街である。

紹興は日本人になじみのある紹興酒の産地としても有名である。

臥薪嘗胆の由来となった越と呉の戦いのころに紹興酒は誕生したといわれる。紹興酒の原料はもち米と小麦で、醸造してまだ熱いうちに甕に入れ、ハスの葉とタケノコの皮で蓋をして寝かす。三年以上寝かしたものを花雕酒と呼び、十八二十年寝かしたものを老酒と呼ぶ。この地には娘が生まれた時に仕込み、地下に埋めて嫁入りする際に掘り出して持たせることから「女兒紅」と名づけられた代表的な紹興酒もある。

紹興出身の著名人は多い。日本人によく知られている魯迅、周恩来もこの紹興を生まれ故郷とする。

魯迅は、当時の暗黒の社会とこの社会を生き抜こうとする近代中国の庶民を初めて描いた。中国民衆の目覚めと再生を希求した代表作「阿Q正伝」、「故郷」等次々

紹興の縁

久場 未雲

と社会性の高い作品を世に問うた。

周恩来は、若いころ日本に留学した経験を持つ。天津の「五四運動」に参加した後フランス、ドイツで働きながら勉学に励んだ。帰国後、中国革命に身を投じ、国家富強、民族繁栄、国際交流のために心を砕いた。新中国対外交渉のほとんどすべての案件を彼は手がけてきた。

私の生まれた年であり、沖繩復帰の年でもある一九七二年、日中国交正常化を実現へ導いたのも周恩来であった。周恩來の死後、残された貯蓄は、わずか五千百人民元であったという。中華人民共和国最初の総理がこの世に残した遺産は、驚くほど少なかったが、彼のイメージと業績は偉大であり、十三億人民の脳裏に深く刻まれている。

中国人の父と日本残留孤児であった母の間に生まれた私は今、第二の故郷沖繩で両国の言葉を生かして仕事をしている。これも日中国交正常化があったればこそである。最近日中関係がぎくしゃくしていると言われることに心が痛む。両国の友好関係が永遠に続くよう願わずにはいられない。

(会社代表)

